宮城野げんきっこ だより２月号

箱根教育合言葉
～箱根を愛し･かしこく･やさしく･たくましく～

令和７年２月20日

先日箱根の森小学校の6年生に登校の際、声をかけられました。いつもは私が車を駐車するとき、会釈なのにその時はエンジンを切るのを待っている6年生。慌てて車を降りると、「今日は楽しみな日なんです」「そうなの？何があるの？」「6年生を送る会！」と、おそ松さんのシェーポーズをしながらピースサインをくれたのでした。自分たちのために会を開いてくれる喜びを私に伝えたいと思ってくれた6年生に感激しました。自分の時は歌をプレゼントしたけれど、5年生は何をしてくれるのかとワクワクした気持ちも話してくれて…その嬉しそうな表情を見ているだけで、きっと温かい会なんだろうなと想像できました。相手に喜んでもらいたいという気持ちで会を進めていった経験から、自分の番が来た時に素直に喜びとして感じられることに改めて温かな経験の大事さに気づかされました。その日小学生に兄弟がいる園児の保護者にも聞いてみました。「自分の子が6年生ではないのに、あんな温かな会を見る事ができ感動です。今日も泣いちゃって。自分の時はどうなっちゃうの！」保護者の喜びは、子どもにも伝わります。一生懸命6年生を送る会を考えていた箱根の森小学校のみな様、地域にも温かな雰囲気が伝わってきました。ありがとうございます。４月からは年長児さくら組をどうぞよろしくお願いいたします！

☆お別れ散歩～彫刻の森美術館～3.4.5 歳児　2月 19 日

3.4.5 歳児4グループに分かれて、彫刻の森美術館に行ってきました。事前にグループに地図を渡し、どのルートで回ろうかと年長児が説明しました。自分で考えたルートは紙を見なくても暗記している園児もいました。

当日だけでなく、この時期は活動に見通しをもって取組めるようになってきます。当日は2月の気候らしく気温は低かったですが、快晴で彫刻をみながらいろいろなルートを楽しみました。大人が考えるより回り道であったり(それが面白い！)、地図で確認したものより実際に行ったらこのルートの方がいいよねと臨機応変にグループの皆に了承を得て変更したりと成長を感じ、そんな年長児をみる年中、年少にとってもよい経験となりました。リニューアルオープンした足湯は景色がとてもよく子どもたちは「ずっと入っていたいくらい」との感想が。また幸せをよぶシンフォニー彫刻は工事のため行くことができないとわかると、「そんなときもあるよね」と友達同士で話したりする姿にも成長を感じました。言うまでもなく、ネットの森は大人気です。フワフワのクッションでとても気持ちよく体をいっぱい使って遊びきりました。

「せんせい、てのまわりみて！てがかいてあるみたい」
年中組の気づきです。水面に浮かんだ表面張力。どの水でも起こるのかと試していました。わくわくしますね～
不思議に思う気持ちが次の学びにつながり、とても大事ですね。

「ゆきだ～もっとふって～」嬉しくて思わず口を開けて雪を食べてみる子。「そうだ、サンタさんにこんどゆきをおねがいしてみよう」「それ、いいね、ぼくも！」という会話にほっこりしました。雪のパワーってすごい！